



## サマリア (Summaria) 2026年 前半期の進化まとめ

パテント・インテグレーション株式会社は、2025年末から2026年上半期にかけて、サマリアの支援範囲を特許調査・分析・明細書作成支援・権利化支援・監視へと段階的に拡張しました。

### 2026年 機能リリース年表

公表日	リリース内容
2025年12月24日	調査支援ツール、基本特許3件追加取得（登録特許合計12件） <sup>[2]</sup>
2026年1月8日	応答方針コメント／意見書案・補正書案作成支援、AI定量分析 <sup>[3]</sup>
2026年1月28日	「審査官ラボ」とのサービス連携 <sup>[4]</sup>
2026年2月13日	「root ipクラウド」との連携 <sup>[5]</sup>
2026年2月20日	業界初（2026年2月12日現在、同社調べ）特許無効化書面作成支援機能 <sup>[6]</sup>
2026年3月19日	明細書作成支援機能 <sup>[7]</sup>
2026年5月14日	発明提案書作成支援機能 <sup>[8]</sup>
2026年5月20日	定期監視（SDI）機能・検索式による一括指示機能 <sup>[9]</sup>

#### ① 権利化支援の深化（1月）

2026年1月8日、拒絶対応ワークフローが大幅強化されました。従来の「拒絶理由通知書・解析レポート作成」に加え、「**応答方針コメント作成**」と「**意見書案・補正書案作成**」が追加され、拒絶対応の検討・ドラフト作成工程を大きく支援できるようになりました。なお同PRでは、意見書案・補正書案はあくまで「素案」であり、弁理士の監督下で整える必要がある旨が明記されています。さらに分析ツール「レポート機能」には「**AI定量分析**」が搭載され、ホワイトスペース分析・競合動向分

析・技術トレンド分析など9種のプリセットを活用して、定量・定性の両軸による分析報告書をワンストップで作成できるようになりました。<sup>[3]</sup>

## ② 外部サービスとのエコシステム連携（1月末～2月）

2026年1月28日、審査官ごとの傾向・査定率を統計的に可視化する「**審査官ラボ**」との連携が開始されました。サマリアの拒絶解析レポートと審査官統計を組み合わせることで、データに基づく戦略的な拒絶応答の検討が可能になっています。2026年2月13日には「**root ipクラウド**」（導入360社・継続率97%）との連携も開始し、知財案件管理（守り）とAI読解・意見書作成（攻め）をシームレスに統合するSaaS間エコシステムが構築されました。<sup>[4][5]</sup>

## ③ 業界初：特許無効化書面の作成支援（2月）

2026年2月20日（同社公表日）、業界初（2026年2月12日現在、同社調べ）となる「**特許無効化書面の作成支援機能**」がリリースされました。異議申立書案・無効審判請求書案・刊行物等提出書案の3種に対応し、調査支援ツールによる従来技術調査から無効化書面の素案作成までを一気通貫でサポートします。「カスタム・クレームチャート」と「記載要件違反チェック」（明確性・サポート要件・実施可能要件・発明該当性・産業上利用可能性の5項目）を組み合わせた設計です。<sup>[6]</sup>

## ④ 明細書作成支援機能（3月）

2026年3月19日、「**明細書作成支援機能**」がリリースされました。主な特徴は以下の通りです：<sup>[7]</sup>

- **3つの開始方法**：「特許請求の範囲から」「明細書下書きから」「ゼロから」
- **ドラフト生成機能**：請求項作成→付記・イントロ生成→用語説明→実施形態骨格→実施例詳細という段階的構築
- **AIエージェント機能**：Ask（質問）とAgent（編集）の2モード切り替え
- **明細書チェック機能**：50以上のルールによる記載不備検出・重要度ランク付け
- **ハイライトエディタ**：キーワードハイライトを維持したまま編集可能
- **シークレットモード**：生成AIを使用しないルールベースのチェックモード。サマリアサーバーへの保存・入力が行われず、セキュリティ面に不安がある場合（納品済み明細書や手続補正書のチェック等）に推奨<sup>[8]</sup>

人間の判断・確認を中心に据えながら、生成AIが補助的な役割を担う設計を謳っており、明細書作成に関する基本特許（特許第7744712号）を取得済みです。<sup>[7]</sup>

### ⑤ 発明提案書作成支援機能（5月上旬）

2026年5月14日（同社公表日）、発明者の業務負担を軽減する「**発明提案書作成支援機能**」がリリースされました。失敗学の権威・畑村洋太郎氏の「**試動フレームワーク**」をAI実装し、構成・機能・課題の3軸から論理矛盾・構成不足・冗長構成を自動検出します。また、TRIZ・KJ法・SCAMPERを含む**12種のアイデア創出フレームワーク**をAIで実行でき、JP・US・EP・WOを網羅した従来技術調査から新規性・進歩性コメントつき調査報告書の自動生成まで対応します。作成した提案書はそのまま明細書作成支援機能へ連携可能です。<sup>[8]</sup>

### ⑥ 定期監視（SDI）と一括指示（5月下旬）

2026年5月20日（同社公表日）、「**検索式による一括指示・定期監視（SDI）機能**」がリリースされました。従来は公報番号リストの別途準備が必要だった一括指示を、**検索式だけで対象集合の作成から自動処理まで完結**できるようになりました。定期監視は日次・週次・月次のスケジュール設定に対応し、競合出願動向の自動モニタリングや権利侵害リスクの早期把握に活用できます。<sup>[9]</sup>

## 2026年上半期の総括

公開リリースを俯瞰すると、サマリアは従来の特許文書読解支援を起点に、調査・分析・出願起案・明細書作成支援・拒絶対応・無効化対応・定期監視へと支援範囲を広げており、知財業務プロセスを横断的に支援するプラットフォーム色を強めています。外部SaaS（審査官ラボ・root ipクラウド）との連携でエコシステムも拡大しており、導入企業数は2025年末時点で130社超に達しています。

<sup>[2][5][4]</sup>

\*\*

1. <https://www.youtube.com/watch?v=YrwjPYZ5MAA>

2. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>

3. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000086119.html>
4. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000086119.html>
5. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000166451.html>
6. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>
7. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>
8. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000086119.html>
9. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000022.000086119.html>
10. <https://note.com/gaha9ben54/n/n124cfd71b212>
11. <https://patent-i.com/summaria/>
12. <https://www.youtube.com/watch?v=GAadGSJVvw0>
13. <https://www.tv-tokyo.co.jp/plus/external-pr/entry/14605.html>
14. [https://patent-i.com/summaria/manual/S\\_20260326](https://patent-i.com/summaria/manual/S_20260326)
15. <https://www.youtube.com/watch?v=z2zewN2wNOI>
16. <https://www.atpress.ne.jp/news/351500>
17. <https://yorozuipsc.com/blog/4736804>
18. <https://patent-i.com/summaria/login>
19. [https://note.com/ip\\_design/n/n703914ad01c2](https://note.com/ip_design/n/n703914ad01c2)
20. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/6ea9f6dfcf31f40be4e3.pdf>
21. <https://x.com/0seYoshiyuki/status/2031522143293550911>